

魚 群 探 見 飛 行

宇 野 守 一 安 源之允

I 要 旨

犬吠近海より黒潮本流、又は北上接岸分枝に乗つて北上回游するカツオ、イワシ、サバ、ブリ等について旋網漁業の対象魚を調査するため東北3県（茨城、宮城、岩手）及び北部太平洋海区旋網漁業協議会が共同して昨年に引続いて5月～9月に亘り本県担当海域を調査したのでその結果を報告する。

II 目 的

この調査は本県沖合より金華山沖合へ向う黒潮本流又は北上分枝に乗つて北上する魚群の回游経路を調査し東北海域に操業する旋網各船の誘導、併せて漁況・海況との相関性等について調査し斯業の発展に寄与する目的で調査を実施した。

III 方 法

- 1 使用機 水産航空KK
- 2 構造 イ 単発^上低翼木金製、セスナ175型
ロ デハピラント ダブ104型 双発低翼単葉全金属製
- 3 塔乗員 調査員 本場職員
- 4 調査月日 昭和35年5月22日 №1
昭和35年5月23日 №2
昭和35年6月 2日 №3 №4
昭和35年6月18日 №5 №6
昭和35年7月 6日 №7
昭和37年7月 7日 №8
昭和37年9月 2日 №9
- 5 調査海域 犬吠近海よりエリモ近海

IV 調査結果

1 調査時における海況状態

5月 この調査時の黒潮の最先端は北緯37度30分東経143度20分付近に達した。黒潮主流は房総半島に接岸して北東流しその北上端は北緯37度40分東経145度に達していた。

6月 黒潮の流れは北緯35度30分東経142度付近より北緯36度50分東経144度に達し、主流の一部は東経142度30分付近を北に伸びその先端は北緯38度30分東経145度に達した後反転し北緯35度50分東経146度付近で主流と合流していた。

7月 黒潮主流は6月とほぼ同様であつたがその北上分枝は北緯37度東経143度50分から北に伸びその北端は北緯40度東経144度に達した後反転して北緯36度30分東経145度付近で主流と合流していた。北緯37度線上の北上暖水域の幅は著しく狭くなつた。

9月 黒潮主流は2~3月より60哩南偏して北緯36度東経144度付近を経て北緯36度50分東経150度付近をWSEに流去していた。黒潮北上分枝は今期に入つて黒潮主流と分離し北緯39度30分東経144度50分付近にかなり大きな孤立暖水域を形成した。釧路沖の北緯42度東経144

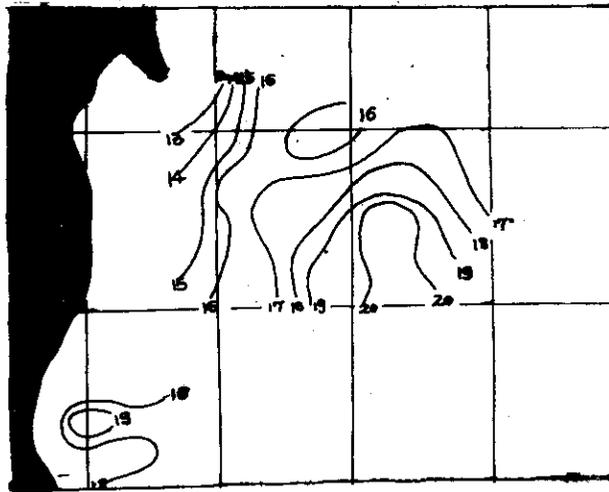


Fig 1 5 月

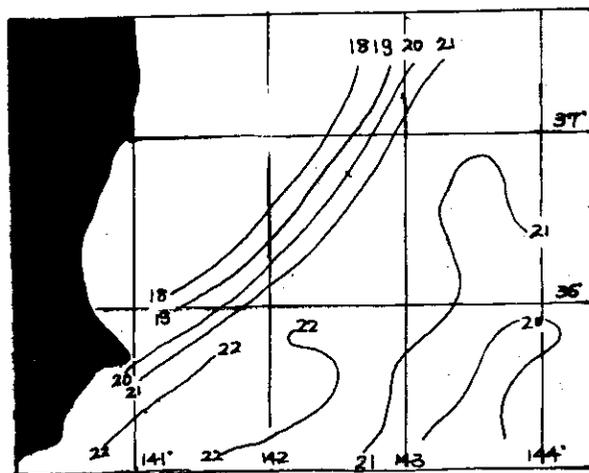


Fig 2 6月中旬前半

度30分付近の暖水塊が出現し又親潮の接岸分枝は花咲沖を経て釧路沖に達し、釧路沖の暖水塊の東方を南西に伸びその先端は宮古沖の北緯39度30分東経143度に達していた。津軽暖流は尻屋岬沖で東経143度付近まで張り出し宮古沿岸で極く接岸しその幅は15哩以下となつていた。

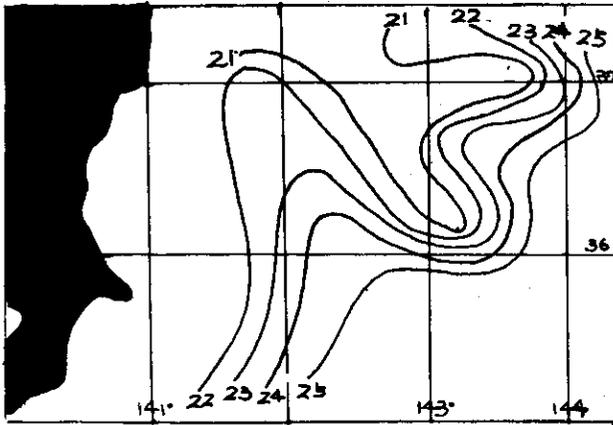


Fig 3 7月上旬後半

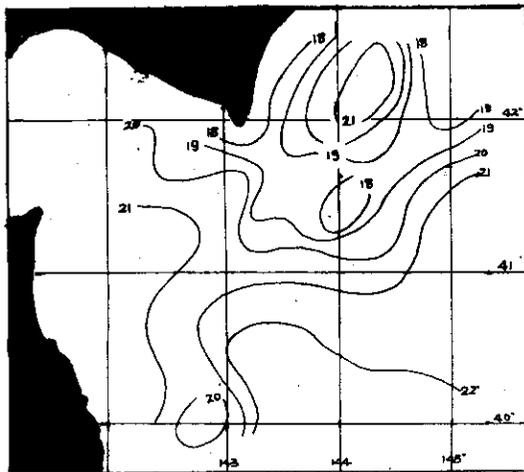


Fig 4 8月下旬後半

V 魚 群 発 見

第1次 この調査は魚群発見少く日立沖40哩付近においてトリ付マグロこの沖側でトリ付メジ大群を発見したにすぎなかつた。

第1次漁場調査飛行 5月22日 霞ヶ浦
 離陸 12時47分 着陸 16時50分
 風 (H400m) SSE 16'-10' W+BC 120'-30'

(註) ⊙ 流れ兼小量 ⊕ 白い(シ)潮目
 ⊙ 中 ⊕ 多い
 ⊙ 多

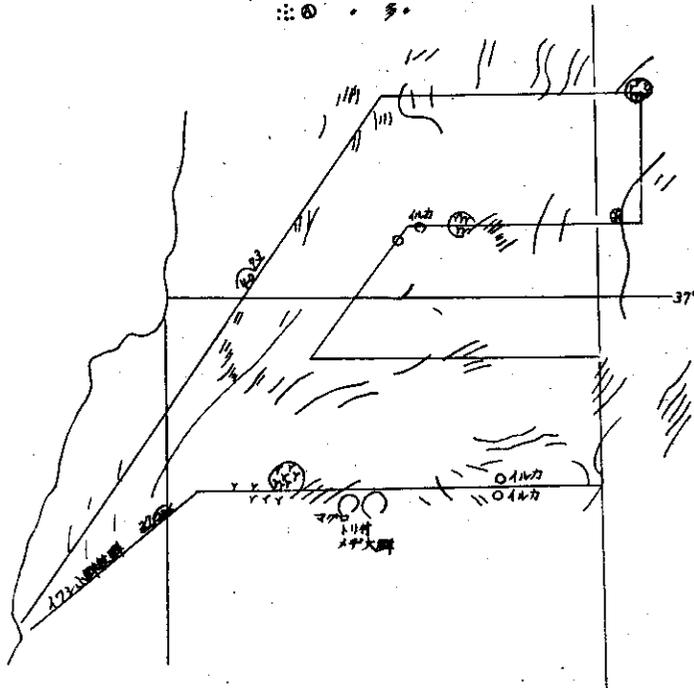


Fig 5 第1次漁場調査飛行 5月22日霞ヶ浦

第2次 この調査も余り魚群発見出来ず大吠近海でトリ付イワシ小群又は磯崎近海でイワシ小群数群を
発見したにすぎなかつた。

第2次漁場調査 5月23日霞ヶ浦
 離陸 07:20 着陸 13:03
 飛行高度 400m
 風 (H400m) SW13~30'
 W.P.C. 所々 V7'~12'

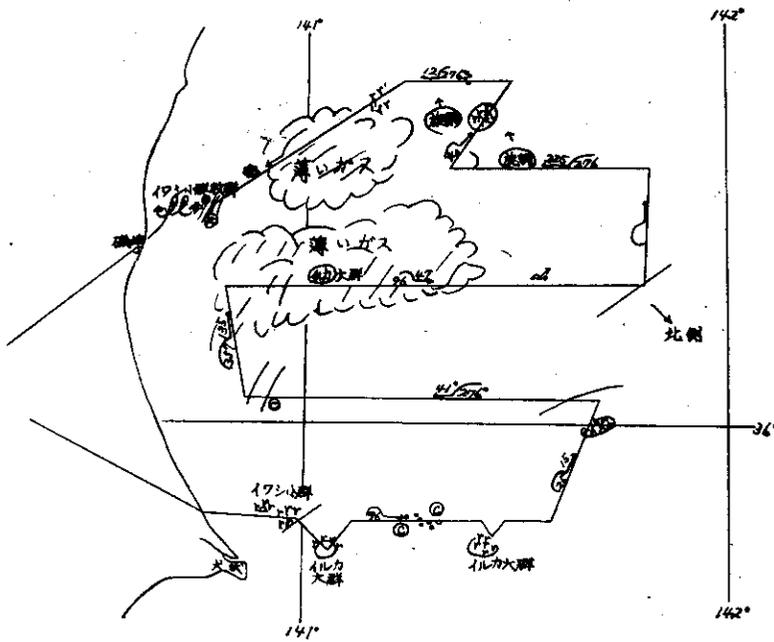
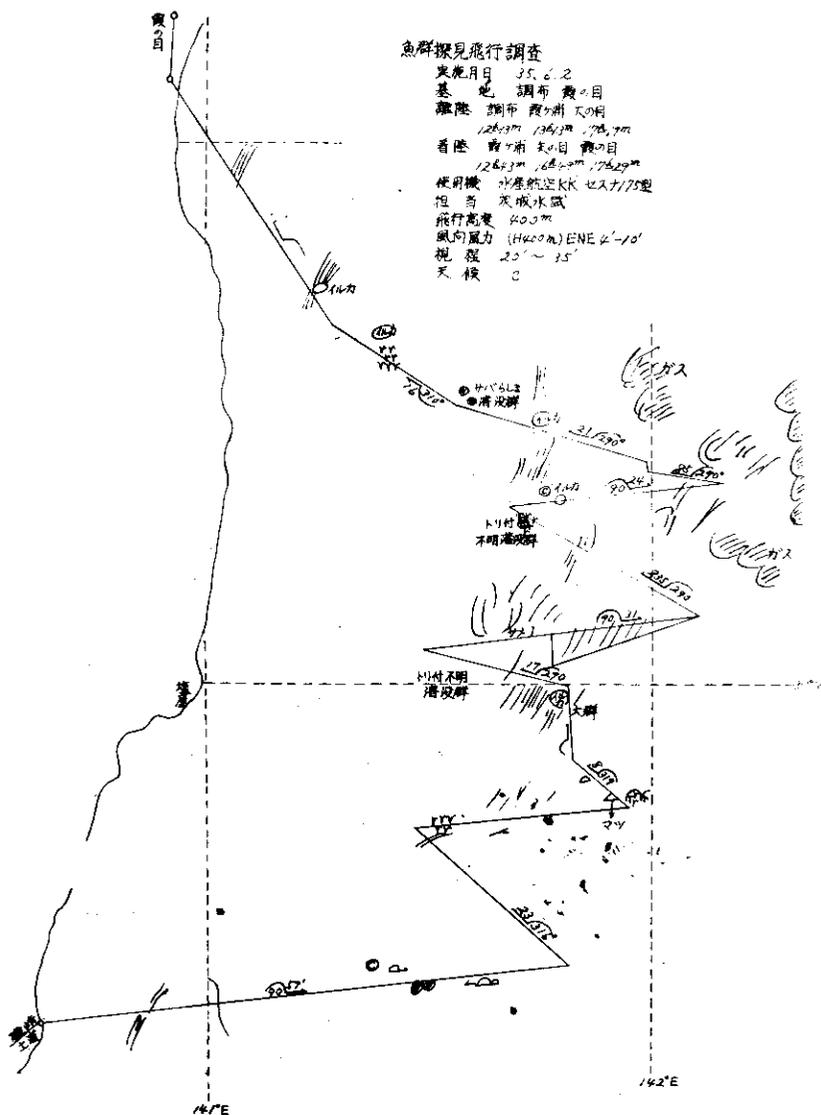


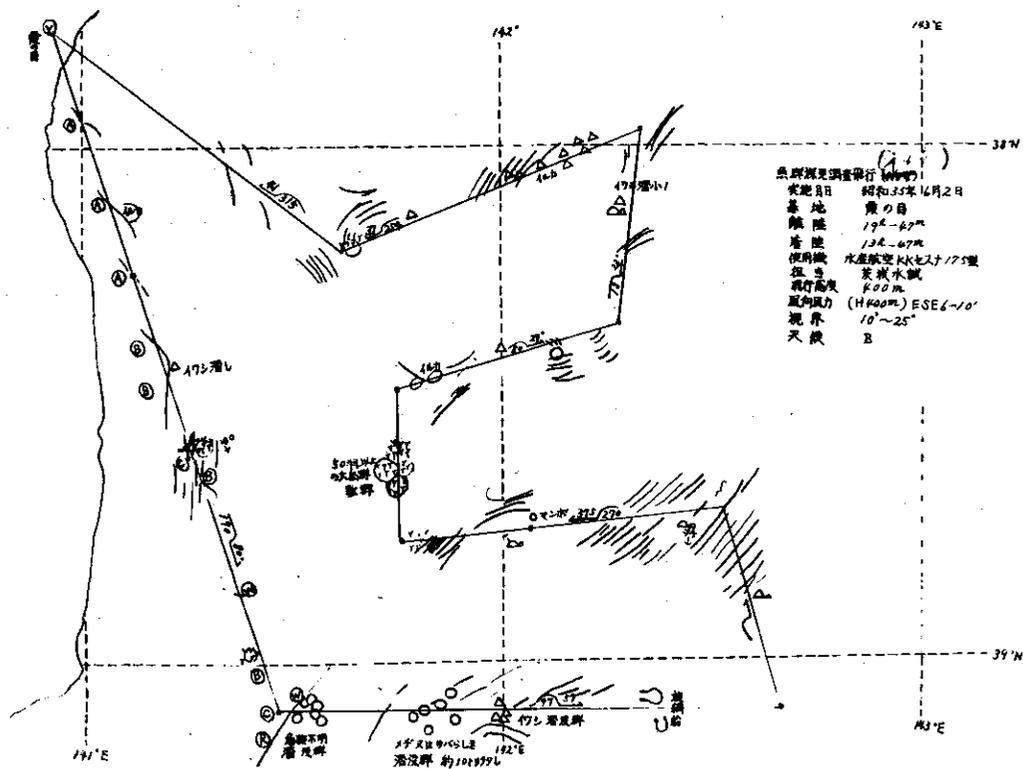
Fig 6 第2次漁場調査 5月23日霞ヶ浦

第3次 塩屋崎東37湊付近にトリ付魚種不明の潜没群、又請戸E/S40湊付近でトリ付魚種不明の潜没群、請戸ENE30湊付近でサバ群らしき潜没群を発見した。



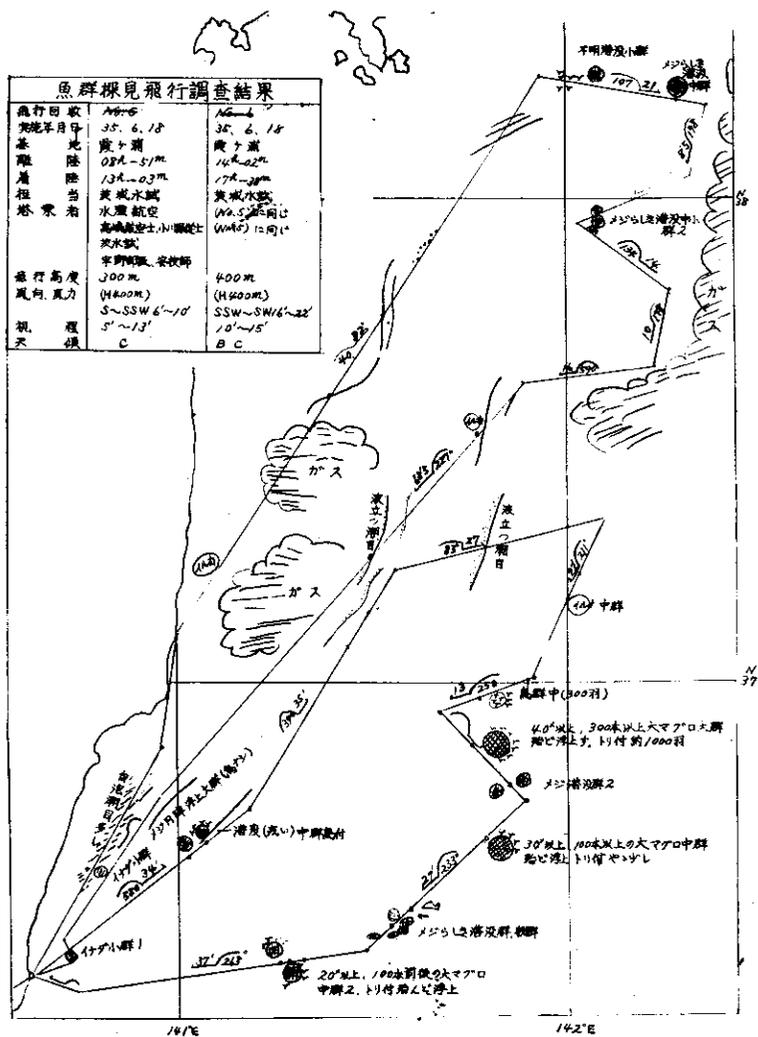
第3次魚群探見飛行調査

第4次 請戸E/S～東経142度付近まで(東経141度30分より)において魚種不明潜没群、メジ又はサバラしき潜没群約10群、トリ多し、この沖側においてイワシ潜没群が発見され又請戸東30～35遡付近ではトリ大群があつて北側の東経142度20分北緯37度40～45分付近にはイワシ潜没群小群1が発見された。



第4次魚群探見調査飛行

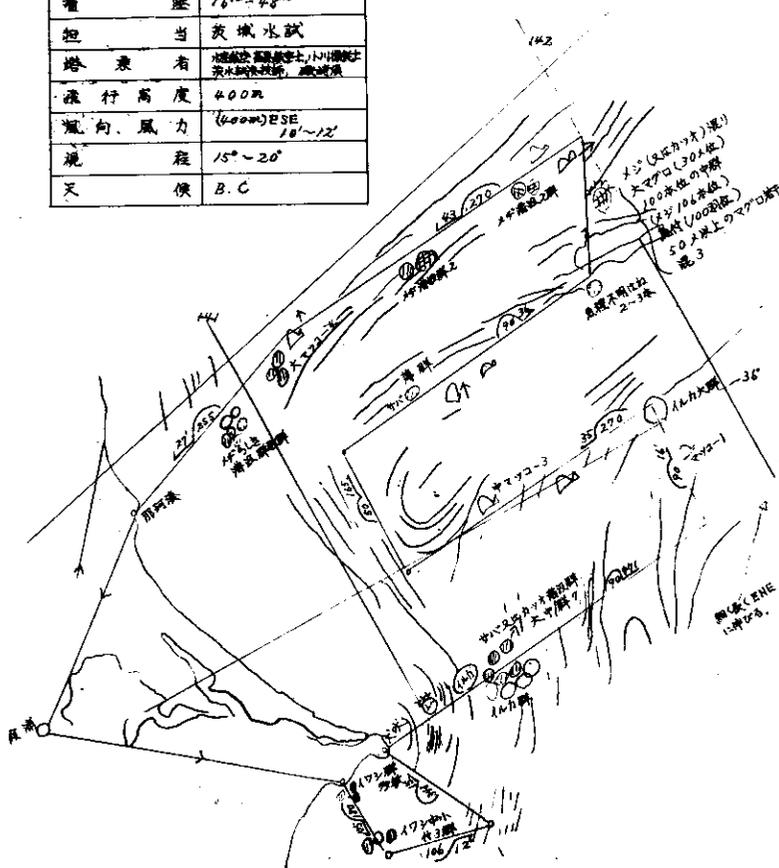
第5次及び第6次 この調査では魚群がかなり発見された。即ち磯崎近海のイナダ小群1を始め、日立沖より東経141度線にイナダ小群メジ陣浮上大群、浅い潜没中群トリ付磯崎E/N~ENE40~60度海域では20メ以上の大マグロ100本前後の中群2群(トリ付)又メジらしき潜没群、数群、東経141度40分北緯36度37分付近より北緯37度付近にかけて30メ以上の大マグロ100本(中群)メジ潜没群2、40メ以上大マグロ大群ほとんど浮上トリ1000羽位、又金華山近海S/E~ESE海域でメジらしき潜没群中小各1群、魚群不明潜没群小群が発見された。



第5次及び第6次魚群探見飛行調査結果

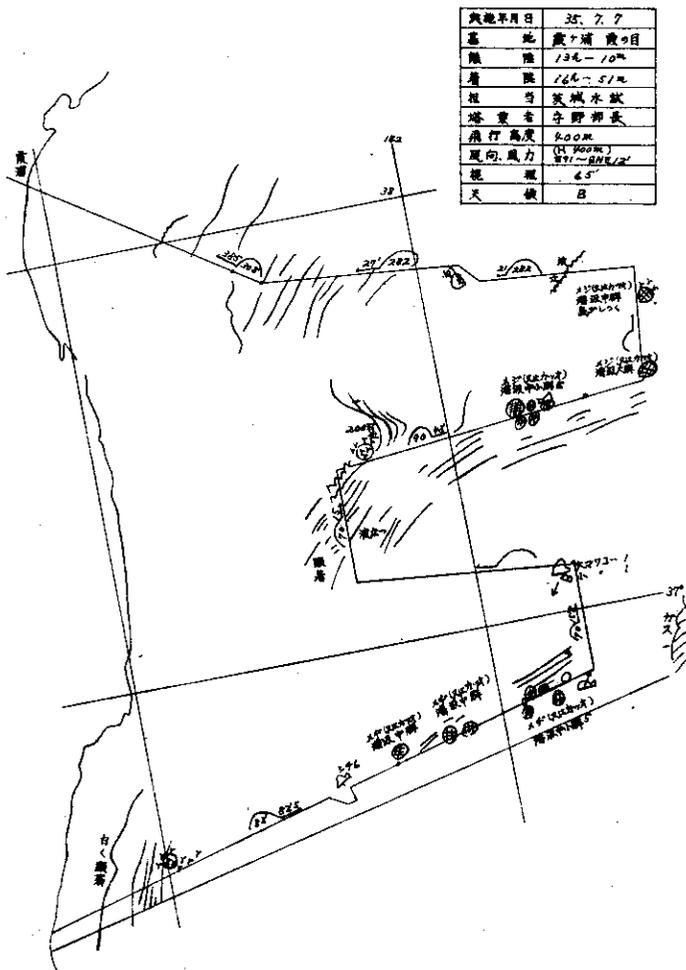
第7次 大吠S海域イワン中小群数群発見、又大吠E海域25湊付近でサバ又はカツオ潜没群大中7群
 那珂湊E~E/S東経142度付近までの海域においてメジ又はメジらしき潜没群、大マグロ(30メ
 以上)100本位、50メ以上魚種不明等数群発見した。

魚群探見飛行調査結果	
飛行回数	4回-2
実施年月日	22.7.6
基地	養士浦
離陸	13 ^h -00 ^m
着陸	18 ^h -40 ^m
担当	茨城水試
搭乗者	水試調査員(佐々木、小川、山本、 茨城水試技師、磯崎)等
飛行高度	400m
風向、風力	(600m)ESE 10~12'
航程	15°~20°
天候	B.C



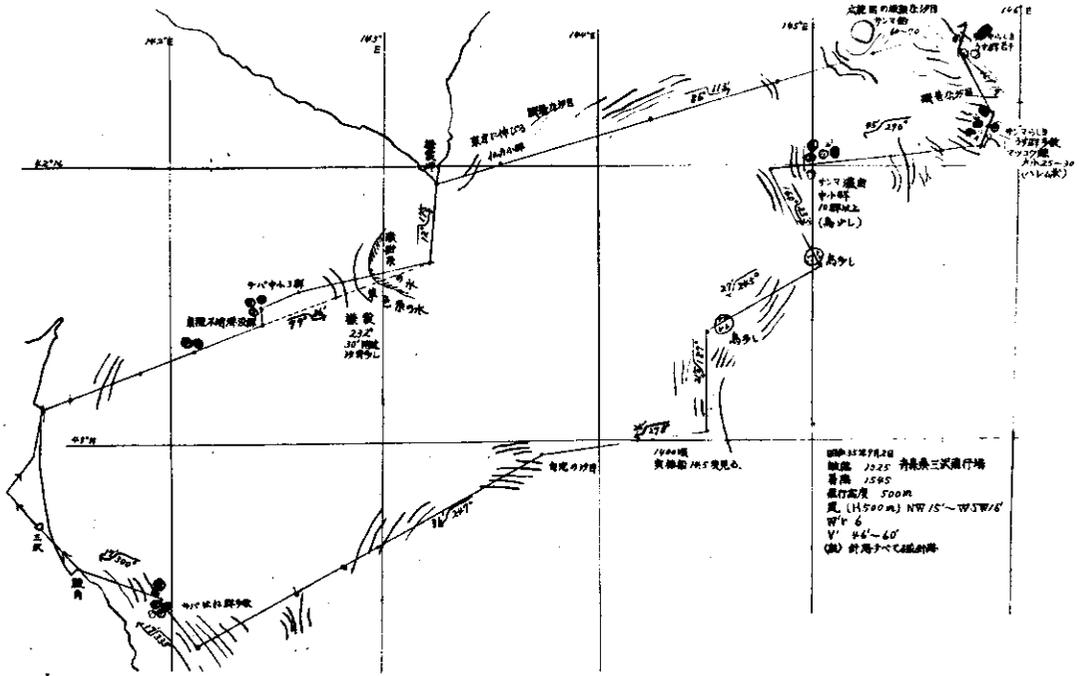
第7次魚群探見飛行調査結果

第8次 前調査海域より北側を調査。請戸E/S60 渚付近でメジ又はカツオ潜没群多数発見。請戸E7
70~80 渚海域でメジ又はカツオ大中小群発見した。



第8次魚群探見飛行調査結果

第9次 本調査はサンマ解禁前の魚群調査でエリモ近海より落石近海を調査魚群は東経145度北緯42度付近でサンマ中小群10群以上を発見。又東経145度15分北緯42度40分、東経145度50分北緯42度15分、東経145度45分北緯42度40分付近海域でサンマらしき薄群多数を発見した。



第9次魚群探見飛行調査結果